

研修講演会「相手に届く話し方」～魅力ある話し方とは・・・～

(株)堂島スイーツ 専務取締役 永井路子

女性会の研修へは初めての参加でした。少し早めに着いたおかげで、講師の方に近い席に陣取らせて頂きました。当日の参加者が60名と盛況の中、講師の石川豊子氏が挨拶をされると、皆さんの視線が1点に集中し、興味の高さが窺われました。

石川氏の自論によると、コミュニケーションとは①言語②非言語とに分かれ、特に②の非言語である立ち居振る舞いによって、伝達度が変わるとのことです。「伝える」＝「伝わる」でありたいところですが、統計によると実際の伝達度は50%～30%だそうです。話した内容の80%は相手に伝わっている、との意見が会場内から出ましたが、ずいぶん掛け離れており、驚きです。

同じく統計によりますと、人間は相手の第一印象で93%を決めてしまい、その内訳は①言語が38%②非言語が55%となります。

コミュニケーションの原点は、「ちゃんと届くこと・伝わること」残念ながら、現在の学校授業では、言葉遣いや話し方の態度などの教育は無いに等しいのではないのでしょうか。「自己紹介した時に、「えっ？」と聞き直された経験がないか？」と質問をされたところ、数名の方が手を挙げられました。手を挙げられた方が、聞き直された理由の多くが、「似通った発音」でした。

例えば、「西尾さん」→「石尾さん」、「中根さん」→「あかねさん」、「タナック」→「パナック」といった具合です。言葉で伝える場合、その発音が非常に大事であることが、見事に証明されました。

意識せずに話していると、案外発音があいまいになるということが理解できたところで、会場全員で「滑舌」と「発声」の練習を致しました。掛け声に合わせて、「あ」「い」「う」「え」「お」と改めて声を出してみると、口の開け方が足りなかったり、最後まで聞き取れなかったりするものが、よくわかるものです。

私自身も、「あ」を発音する際、口を横に開けていたようです。正しくは縦に大きく広げて「あ」と発音すると、自分の声がより大きくなるのを実感できます。

もちろん、話す内容と組み立て方が大切ですが、まずは、ハキハキと滑舌よく発音することから、コミュニケーションが始まっている事に気付かされた2時間でした。



尾崎名誉会長 朝日放送ラジオ出演

8月28日(日)「磯辺・柴田の日曜のびのび大放送」内の「いそべっちの前へ前へポッポー！」に出演されました。番組の内容はhttp://www.osaka.cci.or.jp/radio/isobe/pdf/20110822_ozaki.pdfをご覧ください。



富田祐子さん 大阪マラソン2011完走

10月30日(日)「大阪マラソン2011」(第1回)に大商女性会会員の富田祐子さん(株)センターフィールド)が参加し、完走されました。



平成23年度の主な事業予定(後半)

平成23年	12月2日(金)	視察研修会
	～3日(土)	
平成24年	1月23日(月)	新年互礼会
	2月15日(水)	経営事例発表会
	3月21日(水)	【大阪府女性会連合会】総会&講演会

◆編◆集◆後◆記◆

もう11月に入っているのに、いつまでも暖かいから、今年は御堂筋のいちよう並木の紅葉も遅いですねーと、知人と話しながら歩いたのが10日程前。もうコート姿が目立つ時節になりました。色々なことの多かった今年の日本でした。大商女性会の皆様は、こんなときこそ元気に明るくをモットーに、それぞれの場で活躍をされました。広報委員会は来年も「大阪から元気を全国に」がお伝えできる誌面をお届けしたいと思います。皆様のご協力をお願い致します。

(広報委員会)

※掲載している役職は、全て開催当時のものです。

NOW

Vol. 25 2011年 秋号

大商女性会 編集発行/大阪商工会議所女性会(大阪商工会議所総務広報部内)
〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8 TEL:06-6944-6211 FAX:06-6944-6250

平成23年度 通常総会

池田綜合法律事務所 副所長 池田容子

平成23年6月22日、「大阪商工会議所女性会 通常総会」が、帝国ホテル大阪にて、会員175名の内103名出席2名の委任状の下、盛大に、開催されました。

上西美智子女性会会長の凛と信を身にまとわれたの、堂々と声高らかな開会のご挨拶に始まり、次いで、尾崎公子名誉会長より、阪神淡路大震災の想いをこめて、「東日本大震災への義捐金の早々のお届け」の御報告が有り、続いて、大阪商工会議所佐藤茂雄会頭より、「女性会は、風と共に去りぬの女性のたくましさ」と、戦後の集団就職列車を見送る母子の情愛・思慕の念・温かい包容力があり、千客万来都市大阪にも、このパワー・エネルギーを注いで下さい」とのエールを戴きました。佐藤会頭様の女性会への温かい励ましと、大阪商都への大きな愛を感じ、私達も嬉しくほのぼのの勇氣百倍でございます。



昼食をはさんで、更家悠介サラヤ(株)社長による御講演『世界の衛生・環境・健康に貢献する！一熊野から世界へ』を戴きました。グローバル化の中で、液体消毒石鹸の開発・原材料の調達・販路拡大・消費者拡大の工夫の中で、政治経済・民族文化・自然環境の異なるインドネシア・アフリカ等での、環境への貢献と、ビジネスチャンスに前向きに捉え、勇氣と情熱を以て企業発展に邁進する経営哲学に触れた思いでございます。

これは、まさに女性会の活動指針「凛すなわち、情熱・勇氣を以て行動し、社業の発展に努め、地域社会に貢献する」と言う真髓に迫るものがあり、会員の皆様の今後の御活躍・発展の糧となりますことでしょう。興奮冷めやらぬ中、会員相互の懇親と研修での再会を楽しみに、大川雅子副会長による閉会のご挨拶にて、名残惜しく散会致しました。

都をどりに参加して

センターフィールド(株) 代表取締役 富田祐子

4月6日桜花爛漫の素晴らしいお天気に恵まれての中、開催されました女性会懇親会「都をどり・昼食会」に参加させて頂きました。

東日本広域に起こった、未曾有の巨大地震が発生間もないと言うことで、世間は自粛ムードではありましたが、大商女性会は指針をもとに経済復興を願い決行致しました。

昼食は祇園「花郷」にてのミニ会席は、季節の食材がふんだんに使われたお料理で、春を堪能させて頂きました。

経験豊富な諸先輩方との会食会では、経営の事は勿論、女性としての生き方も含めて、本当に多くを学ばせて頂いております。諸先輩方のように、いつも輝いている女性でありたいと思います。

都をどりは、古来より春を告げる一大イベントです。日々急ぎ足の中で、華やかな踊りやお歌に触れるひとときによって、至福の喜びを感じさせて頂けたこと、感謝申し上げます。



第23回近畿商工会議所女性会連合会総会 福井大会

浅井硝子(株)代表取締役会長 浅井幸子

6月3日(金)～4日(土)梅雨の晴れ間、鮮やかな新緑を車窓より満喫しながら、一路福井に向かいました。

福井女性会の方々にお出迎えを受け、総会が始まるまでの間、東北・福井の物産店でお土産を買いました。近畿2府51女性会、617名出席のもと、総会が開かれました。記念講演は、イーデス・ハンソン氏、演題は「これからの新しい女性の生き方」。

内容は「社会進出」＝家庭は社会の基本単位であり、家庭が有って社会が成り立っている。家庭にいる主婦は社会参加していないのではない。収入は得ないが、家庭は社会の仕事である。「自立」＝経済だけではない。価値観を持ち、自分はどのように生きていくのか、決める事が出来るのを自立という。離婚は罰ではない。人生経験の大事な一つである。とのお話でした。講演の後、若さと笑顔あふれる高校生のチアダンスで懇親会が始まりました。お食事は地元で取れた食材の美味しいお料理を頂きました。

2日目は、羽二重餅の里、次に相互タクシーの多田清翁氏が建立された立派な越前大仏が祀られる清大寺を見学し、その後厳しい修業で有名な永平寺を見学しました。昼食の後帰路につきました。



全国商工会議所女性会連合会 浜松全国大会

大和熔材(株)監査役 名倉百合子

平成23年10月6日(木)～7日(金)の2日間、静岡県浜松市で開催されました本大会では、大阪女性会会員の田ノ本智子さん(株)マーズデザイン)がスタートアップ部門で優秀賞を受賞、富田祐子さん(センターフィールド(株))がグロース部門で優秀賞を受賞、全国の女性会の出席者2,765人の前で吉川全国商工会議所女性会連合会会長から表彰されました。私達大阪女性会の参加者全員とても誇らしく手が痛くなるほどの拍手をしました。また、東日本大震災の被災地からも大勢の女性会の方々に参加され代表して、東北六県商工会議所女性会連合会の平賀ノブ会長(仙台女性会会長)より大阪の女性会から一番早く義援金が送られてきて本当にありがたかったとお礼の言葉が述べられました。

記念講演会では、スズキ(株)代表取締役会長兼社長 鈴木修氏の81歳とは思えないお元気でユーモアあふれる「経営雑感」という演題でお話をいただきました。

お話が終わり退席されるときに、私より年上の名誉会長がいらっしゃると、わが大阪商工会議所女性会の尾崎名誉会長の所へおいでになり、握手をして会場のみなさんにご紹介されました。会場の全員が、お元気なお二人に盛大な拍手をおくりました。

また、前日の懇親会では、アトラクションとして歌ありエレクtron演奏ありで会場が盛り上がりました。またテレビでも取り上げられていた、福島県いわき市「スパリゾートハワイアンズ」のフラガールの震災復興への願いを込めてのフラダンスもとても印象的でした。最後に全員で「上を向いて歩こう」を大合唱して終了しました。

主催者側からのご挨拶の中で、市制100周年・浜松女性会10周年の記念すべき時の全国大会ですとの言葉があり、ガーベラの生産日本一とのことで、浜松女性会の皆さん全員ガーベラの花を胸に付けて、笑顔でのおもてなしをしていただきました。お陰でとても楽しい2日間でした。



大阪府商工会議所女性会連合会 平成23年度北部ブロック研修会に参加して

(株)アルメディア・ネットワーク 取締役 堀内智子

5月19日(木)、大阪商工会議所女性会が初の幹事を務める北部ブロック研修会は、大阪の迎賓館として建造された大阪市公館で90名余の参加者で開催されました。まず大阪城天守閣 主任学芸員 跡部 信氏による「大阪城の魅力について」の講演があり、ユーモアたっぷりに、時には今放映されている「江～姫たちの戦国～」のお芝居も入れながら、大阪城の魅力を紹介されました。

大阪城は「日本一」が、3つあるそうです。

- ① 日本一巨石の城
- ② 日本一ドラマチックな歴史を持つ城・歴史の変わり目に城が戦場になる。(3戦3敗)
- ③ 日本一古い復興天守閣を持つ城

また、秀吉が築いた大阪城は、現在の大阪城の下に埋まっており、徳川幕府が盛土をして埋め、その上に新たに築いたものだそうです。

続いて、大阪市公館 館長 鷺見 茂氏による公館の説明があり、藤田伝三郎男爵が所有した網島御殿の在りし日のこと、相続で藤田美術館、太閤園、大阪市公館に3分割した後、公館として国内外の賓客をお迎えしてきたことなどを話されました。

昼食後ゆっくりとつつじが満開の庭園を散策しました。庭園は大阪市を模した趣向で東庭の茶室には枝垂桜、西庭の東屋には菖蒲が美しいそうです。大阪再認識の一日でした。



経営事例発表会

《平成23年10月12日(水)10月例会》

(株)タナック 取締役 藤河和子さんのお話をお聞きして

(株)山口安製作所 代表取締役社長 山本有子



先代が二代続けて体調不良で短期間で交代となった為、経理部長を経て5年前に社長に就任されました。女性という事で風当たりも強く、降って湧いたような出来事に心も身体もついて行かず、プレッシャーに押し潰されそうになり精神のバランスを崩した、と当時を振り返られています。しかし自分の事で思い悩むより自分以外の事に力を注ごう、神様は乗り越えられる試練だから自分に与えた、と現状を前向きに捉え決意を固められました。黄金時代に成長を遂げていった中で、人材育成や商品開発を怠ってきた社内はマンネリが慢性化していました。自らグループごとの会議に出席し従業員と話し合いを重ねることで次第に改善し緊張感が芽生えていきました。

自分が喜び相手にも喜んでもらい社会にも認められる、そうでなければ商売は成り立たない、顧客に喜ばれ結果企業も利益を得る、近江商人の「三方よし」の精神を言葉だけでなく実践することで信用を築き相互の信頼を深められたのだと思います。

一見クールな印象とは違い、「ビジネスの原点は人と人の繋がりからはじまる」このことを何よりの行動指針とし、これまでやって来られたのは社員や周りの方のお力添えのおかげと感謝の気持ちを忘れません。自分をここまで育ててくれた人たちに恩返しが出来たら、将来は社員を多方面に送り出し地域、社会に貢献したい。関西、日本を元気にしていく、それを応援できるような会社にしていきたい、と夢を語るお姿に心が奮い立ちました。

(有)中村屋本店 取締役 蛭原美恵子さんのお話をお聞きして

オーサカ・ユニーク(株)代表取締役社長 田路朋子



菊薫る日に、118年の歴史を培われておられます、中村屋本店取締役 蛭原美恵子さんから、「変えるべきものと変えてはならないもの」というタイトルで経営者として大切な命題について語っていただきました。

おじい様、ご両親様から生活そのものを通して帝王学を身につけられた蛭原さんは、まさに品格の女性でいらっしゃいます。「辞儀」「書儀」「行儀」の三儀が乱れている社会で、四季の移り変わりを風雅に表す呉服を継承されておられるのは、やはりきちんとした折り目、けじめというものを持っておられるからこそだと感じ入りました。

創業以来、日々切磋琢磨して築き上げられた中村屋だけが持つ、技術と美、そして信頼は「変えてはならないもの」と、力強く語ってくださいました。しかし、和服離れという風潮に対しては、時代を見据え、中村屋の品と質を保ちつつ、お客様の喜ばれるもの、ニーズに合ったものを、「変えるべきもの」として産み出しておられます。この「時の目」こそが、蛭原さんの経営者としての英知ではないでしょうか。

しかし蛭原さんの肉眼の左目は、3度の手術にもかかわらず、光を失われたこととお聞きし胸がいっぱいになりました。ベートーベン音楽家として聴覚を失うという、死にも等しい状況から、強靱な精神力をもって、交響曲第9番を生み出しました。蛭原さんも左目の視力を失うという苦悩を乗り越えられ、残った右目に感謝をする美しい「心の目」で、さらに歴史の年輪を美しく、織りなし、染め上げていかれることを確信させていただきました。素晴らしいお話を誠に有難うございました。